令和３年７月５日発行　毎月１回５日発行　オイスカ通信 690 号　昭和 42 年 12 月 27 日　第三種郵便物認可　別紙

公益財団法人 オイスカ

FURUSATO！ ７月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～

農業機械及び家電製品等の寄贈について

5月31日（月）、綾川推進協議会の会員である宮脇一博氏の紹介により綾川町の福西一樹様から田植機１台（５条植え）を寄贈していただきました。今まで使用していた田植機が老朽化して困っていたので、大変助かりました。

6月14日（月）、高松推進協議会の会員である長野泰三氏から冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、テレビ等沢山の備品を寄贈して頂きました。ほとんどの備品が購入して年数が経過していなく、たいへん綺麗な物でした。

四国研修センター、四国支部で研修生や技能実習生が快適な研修が出来るよう大切に使用させていただきたいと思います。

家電製品については、中部日本研修センター、西日本研修センター、関西研修センター等にも連絡して、有効活用を図りたいと考えています。

寄贈していただいた、お二人の方々、本当にありがとうございました。（小野）

頂いた田植え機で早速作業をしました。
詳細は３面の田植え記事にて！

どれも、きれいな家電製品ばかりでした。

旬のフルーツを収獲！

6月5日（土）、所長の畑でびわの収穫実習を行いました。収穫は初めてするので、とても楽しみにしていました。

畑には、大きいびわと、小さいびわの２種類があります。収穫する前に、どのびわを収穫するか選びます。きれいに熟していないと、食べたとき、おなかが痛くなるようなので、慎重に選びました。選んだら、長いハサミ（高枝切りバサミ）を使って収穫をします。ハサミの刃の向きで、上手に収穫できるか変わります。最初はわからなくて、うまく収穫することができませんでしたが、だんだん慣れてきました。時々、びわが頭に落ちてきたり、他の人に当たってしまったりしたときは、おもしろかったです。

6月にはびわの他に、イチゴとスモモの収穫もしました。いろんな果物を収穫できて楽しかったです。でも、そのあとの下処理をするのはとても大変でした。皮をむいて種を取ったり、地道な作業でした。これらはジャムなどの加工用として使います。日本に来て、いろんなジャムの作り方を勉強しましたが、びわはまだ作ったことがないので、作れる日を楽しみにしています。（メレ）

びわとスモモとイチゴの収穫をしました。その場で取れたてを食べるのは、とても美味しかったです。

新職員挨拶

初めまして。廣野さんの後任の三島純子と申します。出身は魚とミカンが美味しい愛媛県の八幡浜です。

大学卒業後、四国電力労働組合八幡浜支部で勤務していましたが、結婚を機に退職して高松に来ました。しばらく主婦をしていて、久しぶりの社会復帰なので、いろいろなことに戸惑って失敗ばかりですが、笑顔で頑張っています。事務のことも、オイスカのことも１つ１つ勉強しながら成長していきたいと思っています。

趣味は音楽会や、ミュージカル鑑賞です。今はコロナ禍なので、ライブ配信でたのしんでいます。

好きな食べ物は、アイスとチョコと果物です。

皆様とお会いできる機会もあると思いますので、よろしくお願いいたします。

新商品のお知らせ

今年センターでは、きゅうりをたくさん栽培しています。農業チームが丁寧に育てていますが、中には規格外の大きさや、曲がったりして販売できない物もあります。そこで食品加工の出番です。これらのきゅうりでキムチを作りました！

講師は、キムチ本場の国「韓国」生まれの四国支部事務局次長のチェさんにお願いしました。チェさんからは以前、白菜のキムチの作り方を教えていただきましたが、冬場と夏場ではヤムニョン（キムチの素）の作り方が違うということで、もう一度教えていただくことになりました。

「きゅうりのパリパリ食感を長くするために」と、ある事をしたり、本場の技に私たちもびっくり！きゅうりの鮮やかな緑色と唐辛子の赤色が混ざりあってきれいなキムチが出来上がりました。

教わったキムチはこれから販売する予定です。この記事を読んで気になった方は、是非ともお買い求めください。（金澤）

キムチはセンターの研修生と職員に好評でした。
チェさん、ありがとうございました！
キムチは讃さん広場（滝宮店）又は当センターで販売中！

７月の予定

月日	曜日	イベント名	主催・協力	場所
７月４日	日	日本語能力試験	国際交流基金 日本国際教育支援協会	高松市内
７月５日	月	全体会議	四国研修センター	四国研修センター
７月７日	水	支部常任幹事会	四国支部	
７月 19 日	月	国際ボランティア　山崎氏来所～8/31	オイスカ本部	四国研修センター

OISCA × VALLE BOOKS

「FURUSATO！」７月号　発行
公益財団法人　オイスカ四国研修センター
〒761-2103　香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1
TEL　087-876-3333　FAX　087-876-3334
E-mail; oiscastc@oisca.org

古本で！
「子供の森」計画サポートプロジェクト

パプアニューギニアにあるオイスカの研修センター

1987年、稲作をパプアニューギニア（以下、ＰＮＧ）の青年たちに教えて欲しい、と現地ラバウルの有力者の要請を受けて設立した「オイスカラバウル研修センター」は162haの土地を有し、その中に5.4ha（0.3ha×18枚）の水田と約1haの畑があります。

最初入所してきた約80名の研修生たちとオイスカの開発団員はマラリアと闘いながら開墾し、灌漑用の揚水ポンプと水路を備えた立派な田んぼが出来上がりました。土壌が非常に肥沃であったため、苗の作付け間隔は当初何と40cm x 30cmでした。当時のＰＮＧ総理大臣がセンター視察をされるほどセンターはＰＮＧ国内で注目をされ「米の自給」が噂される程になりましたが、一方で豪州からＰＮＧへ米を輸出する業者は「ＰＮＧでは稲は育たない」というキャンペーンを実施したりもしました。

そのような中、ＰＮＧ全国から所謂落ちこぼれ青年たちがこのセンターに集まり、多い年では180人の応募があり、半年の研修を2回実施したこともありました。トビイロウンカの甚大な被害を有機農業で克服して最初の米の収穫をした1994年4月からの3年後、将来に渡って完全無農薬無化学肥料農業を貫く決意を示すため、1997年から「オイスカラバウルエコテック研修センター」に名称を変更しました。

稲作（水田と陸稲）、各種野菜栽培、林業、畜産（養豚・養鶏）養魚・テラピア、農村技術を備えた生命の連鎖農法を教えています。「命に満ち満ちた農場」を展開しています。（荏原）

コスモ石油㈱からの支援で、山岳民族の女性に縫製教室を行いました。
みんなでブラウスを作りました。

「プレイスクール」授業風景
子供たちがラバウルセンターに来て、研修生、スタッフと一緒にゲーム等をします。

「子供の森」計画
パプアニューギニアでは今まで79校の学校が参加し、8 万本以上の木を植えてきました。

「タロビートルズ」の調査
パプアニューギニアでの主食「タロイモ」。
カブトムシによる食害を防ぐために、カブトムシが嫌いなタバコの葉を周りに植えて実験しています。

中央政府林業省大臣一行センター訪問

コロナが治まったらぜひ来てください！

見学レポート

6月4日（金）に、高松市の店へ見学に行ってきました。最初に「パパベル」へ行きました。パパベルは香川県で有名なパン屋さんです。外からでもパンのおいしそうなにおいがしていました。お店の中へ入ると、菓子パンや総菜パンなど、いろいろな種類のパンが並んでいました。実際に買って食べてみると、とてもふわふわしていておいしかったです。センターでも食品加工の研修の時にパンを作ることがあります。私も柔らかくておいしいパンを作れるようになりたいです。

次にイタリア料理のレストランの「ＤＥＡＲ」へ行って、お昼ご飯を兼ねて料理の勉強をしました。パスタとケーキのセットを頼みました。パスタとケーキはどちらも4種類の中から好きなものを選ぶことができます。私は旬の野菜が入ったナスのパスタとイチゴのシフォンケーキをいただきました。きれいなお皿に盛り付けされた料理はとても美味しそうでした。シフォンケーキは、周りに生クリームと苺のソースがデコレーションしてあり、かわいかったです。おいしそうな見た目の料理はとても興味を引きました。私も普段のご飯を作るとき、みんなが食べたい気持ちになるような料理を心がけていきたいです。

2つのお店では、コロナ対策をしっかりしていたり、店員さんの丁寧な接客など良かったです。店員の接客はタイと全然違います。とても気持ちが良かったです。（プロイ）

実際に買って、材料や作り方などについて話し合いました。→

←とてもおいしい良い料理でした。センターで早速イチゴのシフォンケーキを作ってみました。

久しぶりの田植え！

6月に入り、センターでも田植えの時期がやってきました。センターの周りでも、ほとんどの農家さんが田植えをしている姿を見かけます。

今年は、いまだに研修生が入国できずにいるため、人数が少ない中で田植えを行いました。センターのお米は野菜と同様、化学肥料不使用で栽培しています。私が最後に田んぼの作業をしたのは、日本に研修生として来た16年前のことです。久しぶりにしたので、機械の使い方など少々忘れたところもありましたが、何とかできました。

子どもの時は、おばあさんと一緒に作業していました。この作業中で昔のことを思い出しました。日本では、機械を使って作業することが多いですが、私の故郷のマレーシアでは、機械を持っている人はあまりいません。大変だったけど、楽しかったです。おばあさんから教えてもらったことを思い出しながら、草取り等の今後の作業も頑張って、おいしいお米を作りたいです。（ビアン）

頂いた田植え機を使って次々と植えていきました。

無事に大きくなってね。